20210110レムナント教会1部

 **不安の正体(創世記3:8-15)**

　神様によって造られた最初の人間アダムとエバが、神様が食べてはいけないとおっしゃいました善悪を知る木の実を取って食べてしまいました。その結果、今まで平安、幸せの中を当たり前に生きていた者が、その状況が一変し経験したことのない不安に襲われて、また恐怖を感じるようになります。そして、霊的な状況は真っ暗な状況に変えられてしまうようになりました。そのようなところに神様が現れて声をかけます。「アダム。どこにいるのか」とおっしゃいましたが、アダムはその問いかけとは全く関係のないような返事をします。「私は今裸なので恥ずかしくて、怖くて身を隠しています」。すると神様が「おまえが裸であることを誰が教えたのか。いまそういう話ではないでしょう。あなたは神とともにいる存在なのに、いまはどこなのか。そこを聞いているのだよ。なぜ食べてはいけないとわたしが指示したその木の実を取って食べてしまったのか」と問い詰めるように言いました。するとアダムは「あなたが与えられたこの女のせいでそうなりました」と答えます。それで神様がエバに聞かれます。「なぜとんでもないことをしたのか」。するとエバが「実はこの蛇に惑わされて、言われたのにもかかわらず結局食べてしまいました」と答えました。それで神様はその蛇をのろい、それから今日の聖書にあるように、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕き、その蛇は女の子孫のかかとにかみつくということをおっしゃいました。この場面を通して、なぜ人間はこのように不安を抱えて生きるようになったのか、そして、何が本当の問題なのかが分かっていないとどうなってしまうのかということを教えられるようになります。何が本当の問題なのでしょうか。私たちが「これが問題だ」と思っていると、それが問題なのでしょうか。そうするとアダムとエバのようにずるずるさまようしかありません。今日、神のみことばと真剣に向き合うことによって、自分が今まで分かっていた、思っていたことを捨てて、ぜひ神のみことばを心に受け入れていただきたいとそう願います。

　まず第一にここで見られることは、人は本当の問題が何か分かっていないと、肉のつぶやきに捕らわれて、そこに溺れて抜け出すことができません。その結果、神様はアダムを愛して、アダムを憐れみ、アダムのためと思って声をかけていらっしゃるのに、その神の声とかみ合わなくなってしまいます。神様は愛のメッセージを語っていらっしゃるのに、いつも空回りしてしまう状態からなかなか抜けられなくなってしまいます。返事をするにしてもいつも的外れなものになってしまいます。「あなたはどこにいるのか」と神様が声をかけたのは、アダムを助けるためなのです。それなのにアダムは「私は今裸なので」と答えます。一見すると、とんちんかんのようなやりとりになるしかありません。残念ながら、人類が今そういう状態であるし、教会そのものも神のおことばを聞いて聖書のお話を解き明かされている場なのにもかかわらず、神のメッセージが自分自身とかみ合わなくて、空回りすることが残念ながら多くあるということも事実です。だから常に、「自分は頭が悪いので」「自分は健康状態があまり良くないので」「自分には才能などはありません」「自分が生まれた環境は厳しいのです。私の家庭環境を本当に知っていますか。他の人にはある良いものが今私にはありません」「私が置かれている状況はとても険しい状況であり、不利なのですよ」ということばかり口にしてしまうようになります。初代教会の人たちもそうでした。せっかくイエス様がよみがえられて、希望の契約のメッセージを語っていらっしゃるのに、「私たちは今植民地の状態なので」とかみ合わないのです。神様はイスラエルの民をカナンの希望の約束に向かって出エジプトさせて連れて行かれている最中なのに、ちょっとしたことがあればついつい神の契約のカナンのメッセージとは関係なく、「飲み物がないので」「なんで私たちは荒野を歩くのでしょうか」と肉のつぶやきが止まりません。それに溺れて捕らわれてしまうのです。そうすると、不平、不満が止まらないし、イライラが止まらないし、ずっとため息が止まらなくなってしまいます。アダムがいま私は裸なのでと言っていたのは嘘ではありません。私たちが肉の様々なつぶやきをつぶやいている時も、その内容は嘘ではありません。それはすべて事実かもしれません。でも、その肉のつぶやきは自分の人生、また人生の問題の解決に何の役にも立ちません。一ミリたりとも役に立たないものなのです。それにもかかわらず本当の問題が何か分かっていないと、人々はアダムのように肉のつぶやきに溺れて抜けられなくなってしまうということを、まず私たちは確認していないといけません。ですから、本当の問題が何か分かるということがどれほど大切なことなのか、何より重要だということに気づくようになるでしょう。

　それから、もう一つ見られるのが、人が本当の問題が何か分かっていないと、結局、責任の所在云々に捕らわれて、責任転嫁をすることによって逃げようとします。その問題からどうにか逃げようと頑張るようになります。アダムは「神様が与えられたエバのせいでそうなりました」。エバは「蛇のせいでそうなりました」と言いました。人は本当の問題が分からないと、ついつい人のせいにしたり環境のせい、何かのせいにしてしまいます。結局、それは自己合理化、また自分を正当化しようとする動きでしょう。あるいは正反対に責任転嫁することができないような状況の場合は、自分自身がそれを全部背負って、自分が責任を取ろうとするのです。それで結局、壊れて行くようになります。自分が責任を背負って担うことができる者ではないのに、格好良いのか、あるいは常識や倫理、道徳に捕らわれているのか分かりませんが、自分がそれを全部背負うことによって潰れて行くようになる場合もあります。責任の所在を探し求めることによって、結果的にそうなってしまいます。責任転嫁、何かのせい、誰かのせいという発想そのものは、結局心の傷をもたらすものです。私たちの思い、脳細胞の中に何かのせい、誰かのせいというものが残っている限り、それが固まると心の傷になるものなのです。どちらが悪いかどうかは関係ありません。そしてアダム、エバが言ったように、「この妻のせいです」「蛇のせいです」というのは嘘ではありません。だから、やっかいなのです。真っ赤な嘘ならばすぐに捨てればいいわけですが、嘘ではなくて事実なのです。裸であることも事実、いま肉のいろいろな事情も事実です。それから、誰かのせいにしてしまう。それも嘘ではありません。しかし、どんなにそれが事実であっても問題解決からはどんどん遠ざかっていくようになってしまいます。人は本当の問題が何か分かっていないと、責任転嫁、責任云々ということに捕らわれて、そこから抜けられなくなってしまうということを、私たちは聖書を通して確認し、吟味しないといけません。

　それからもう一つ、アダムとエバがこのような状況になってしまい、その不安のあまりに裸なので自分でいちじくの葉をつづり合わせてスカートを作って身を隠し、服を着ることにしました。本当の問題が分かっていないと、自分自ら問題を解決しようとして暴れるようになります。人間の良い言葉で申し上げるとそれが努力でしょう。努力を悪く言うつもりはありませんが、何が本当の問題なのかが分かっていないと、人間自分から問題に立ち向かって、その問題を解決しようとします。それが格好良く見る場合もあるでしょうが、それであがきをするしかありません。それがアダムとエバから見られるものです。しかし、そのような努力というものは、気持ちは十分理解できるけれども一時的なもので、根本的な解決には至らないものであるし、結果的にはよりむなしくなってしまうだけのものです。人は問題解決のために頑張ることによって、イエス様がおっしゃっているように疲れて、重荷を負うようになるしかありません。努力そのものが悪いからではなくて、最初からそれは不可能なことなのに、何が本当の問題なのかが分かっていないので、いちじくの葉をつづり合わせるように、人間自らこうすれば、ああすればという思いで必死になって頑張って問題を解決しようとしてしまいます。しかし、残念ながらそれは人生の重荷になる以外には何ものでもありません。いま、少なくとも人間が本当の問題が分かっていないときにどうなってしまうのかということを確認しました。それはアダムとエバの話に留まるものではなくて今に至るまで同じだし、本当の問題が分かっていない限りは地球が終わるまでずっと続くものなのです。肉のつぶやき、条件がどうのこうのと言いながら、私は障害を抱えているので、私の親は変な親なので、子どもがおかしいので、会社の状況がこうなので、経済的な状況が、社会の情勢が、今はパンデミックなので...と言うことは事実ですが、その肉のつぶやきに溺れて、捕らわれて、そこから出られなくなってしまうという残念な人生を送るしかありません。すべてがもっともなお話であったとしても、これっぽっちも役に立たないし、役に立たないどころかその裏で目に見えない悪魔、サタンがそれを鎖にしてその人間を捕らえてしまうようになります。ですから、これがより大きな問題になります。本当の問題が分かっていないと、誰かのせい、何かのせいにしてしまいます。そうしたくなるでしょう。それで責任逃れの方に逃げ道を求めようとするでしょうけれども、何の役にも立たないどころか、その責任転嫁、何かのせい、誰かのせいというものは、悪魔、サタンの鎖になるものだということを忘れてはいけません。

　それから、何が本当の問題なのかが分かっていないので、自分自らできるかできないか関係なく、問題にぶつかって解決しようとするということは、それも悪魔、サタンの好都合であり、鎖になり、捕らわれて操られるようになる道具になるしかないものだということをぜひ覚えていてください。神様はそのような勘違いの中でアップアップしているアダムとエバを憐れみ、本当の問題が何かを教えられ、だからこそ何が本当の解決で、何が本当の道であり、本当の希望なのかということを教えられました。聖書を通して、自分の、そして人生の本当の問題が何か正しく分かれば、その人はキリストだけが答えとなり、キリストだけが道となります。キリストだけに絞られて、他のすべてから自由になって、キリストだけを道にして、そのキリストの希望を走るようになります。このような本当の問題のついては、世のどこに行っても教えてもらえないものです。ただこの聖書だけにのみ記されていて、聖書を通してのみ教えられるものなので、皆さんが今まで聞いて学んできて、経験して考えていたすべてを下ろさないといけません。神のことばと向き合わないといけません。他には比較するところもありません。教えてもらえないものだということを2021年スタートしながら、しっかりと改めるようにしていただきたいと思います。

　ですから、聖書が言っている本当の問題ということが何か分かれば、今までつぶやいていた肉の様々な事情も問題でありません。その人が病気なのか健康なのか、頭が悪いか良いか、家庭環境がどうのこうの、国がああだこうだ、貧乏なのか金持ちなのかなどは一切問題になりません。それから、エバも問題ではありません。妻も旦那さんも子どもも問題ではありません。環境の問題でもないし、私たちが今まで問題だと思っていたすべてが問題でなくなります。本当の問題は目に見えないところにあり、霊的な問題です。蛇と言われていますが、この蛇がただの蛇ではありません。聖書の黙示録12：9、あとでぜひ調べてみてください。古い蛇、竜、悪魔、サタンとも言われるものが、世界を惑わす者がと言われています。蛇ではなくて、エバではなくて、それを利用して目に見えない霊の存在、悪魔、サタンというもののしわざです。これが分かっていないので、私たちは肉の事情、つぶやきに捕らわれて、誰かのせい、何かのせいということで心の傷を抱えうようになり、また自分でどうにかしようとして重荷を背負うような状態からなかなか抜けられないのです。聖書に耳を傾けましょう。本当の問題は、古い蛇、悪魔、サタンとも呼ばれている、全世界を惑わしているもの、悪魔、サタンなのです。本当の問題は霊的な問題です。その悪魔、サタンに惑わされることによって、エペソ2：1にあるように、神から離れて罪過と罪との中にあって、たましいが死んだ状態になってしまいました。神様と、神のいのち、神の祝福と無縁な存在になってしまった、そこが本当の問題なのです。植民地が問題ではありません。親がどうのこうのが問題ではありません。私も小さい頃、自分の家庭環境が問題だと思っていました。なぜ私には母親がいないのかということが問題だと思っていたので傷だらけの幼少期を送ったという覚えがあります。それは騙されることなのです。嘘ではありませんが、霊的に見るとサタンの鎖に捕らわれるような格好になってしまいます。本当の問題は悪魔のしわざなのです。だから、神様を離れ、神様と無縁な状態、いのちを失ってしまい、死んでしまった状態、これが問題です。だからこのように呼ばれる存在になりました。ヨハネ8：44、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であると。すべてが目に見えない霊的な問題なのです。でも、これが人生の目に見えるすべてを動かすものなのです。これが本当の問題です。どこで何を習って、何を勉強したのか分かりませんが、そこではこの話はありません。だから、相手にしないでただ参考にしていただきたいと思います。聖書に耳を傾ける2021年になりましょう。本当の問題が何か分かっていない限り、残念ながら教会に通っていながらも、先ほども申し上げました3つのことに捕らわれて抜けられないのです。イエスはキリストという神様の希望のメッセージが語られているのにもかかわらず、私とは関係ない、かみ合わなわないものに、すり抜けて行くようになるしかないのではないでしょうか。だから、エペソ2：3、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして、滅びる運命を抱えて生まれて、滅びの運命の中を歩く、それが問題なのです。本当の問題にしっかりと目覚めて気づくようになることを祈りたいと思います。

　ですから、道徳、倫理、どうのこうの以前の問題です。正しいか、正しくないか、間違っているか、良かったのかを判断する以前の話です。本当の問題は悪魔のしわざ、霊的な問題であるので、その問題が分かったときには、今まで何かが言いたい、何かが言えると思っていた口がチャックされます。すべての口が黙るようになるしかありません。それでも頭の中でこうだ、ああだと言いたいことがいっぱいあるでしょう。それはまだ本当の問題に気づいていないからです。何かが正しい、何かが正しくない、その人が悪かったのではないか、親のせいでこうなってしまった、すべてが事実かもしれません。でも、そのような思いがある以上は、残念ながらまだ本当の問題が見えていないことなのです。人生は奴隷のままの状態がずっと続くようになるでしょう。本当の問題はそうではありません。本当の問題が分かれば、答えは一本しかありません。すべてを黙らせて、すべての口を閉じて、すべての思考が停止して一本しか見えません。真っ暗な世の中に一つの星が現れて、光はそれしかなかったかのように。舞台の中で一幕が終わって二幕に移るときに、すべてが真っ暗になり、目の前が何も見えない状態でスポットライトが照らされるような感覚になることです。本当の問題が分かったならば、頭の中がすべて掃除されます。それを一番よくご存じの神様は人を愛してその本当の問題を教えられて、答えが何か、何が希望なのか、何が必要なのかをおっしゃいました。創世記3：15がその福音のお話なのです。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、お前の頭を踏み砕き」。この一本に絞られるようになります。何かが悪い、良い、良かった、悪かったというような概念がすべてとりあえず崩れて、そういう余裕などありません。本当の問題が分かれば。蛇の頭を踏み砕く、女の子孫、メシヤ、キリスト、その約束のほかには頼りはありません。そして、その約束がもう少し具体的にイザヤ7：14、「処女が身ごもって子どもを産む。その名をインマヌエルと言いなさい」と預言されることになり、それが実現されました。Ⅰヨハネ3：8、「神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです」。神の子はイエス様です。キリストのほかには希望、答えなどはありません。なにかしゃべる余地なども一切ありません。キリストOnly、イエスがそのキリストなので、悪魔のしわざを打ち壊して、十字架の上で完了したと宣言された唯一の方なので、そして、今も生きておられ、万軍の主として悪魔の頭を踏み砕いた勝利を宣言していらっしゃる方なので、イエスのほかには道がありません。この一本に絞られます。心の傷も恥ずかしいものになります。どんな深い傷があっても、それは嘘の塊だと気づくようになります。それがどのような事実に基づいて出来上がったものなのか分かりませんが、今まで騙されていたのだねと気づきます。そういう意味でイエス様自らヨハネ8：32でおっしゃったわけです。「真理はあなたがたを自由にします」。本当のことが分かれば、今まで嘘の塊に捕らわれていたそこから自由になります。なぜ心の傷など抱えて、なぜ誰かを恨んで憎んで、なぜその感情に捕らわれてなかなか抜けられないのか。なぜ誰かのせいにしているのか。なぜ肉の状況をつぶやいているのか。才能がないからなのか。才能があるとそれが答えなのでしょうか。貧乏だからなのか。金持ちになれば人生幸せになれると思うのでしょうか。本当のことが分かっていないので、みな偽りの父、悪魔、サタンに見事にやられて、人生棒に振るようになるしかありません。そこに神様がおっしゃっているのです。「おまえはどこにいるのか。障害があるのか。病気があるのか。それを聞いているのではない。どこにいるのか。親がどうのこうの、それを今聞いているわけではない。おまえは神の方にいるのか、悪魔の方にいるのか」と聞いていらっしゃるわけです。お前の問題は霊的な問題なのだよ。だから、わたしがあなたのためにキリストを送って、そのキリストの犠牲によってのみ、あなたの問題は解決する。あなたは今までのすべてを切り捨てて、ただキリストだけを見上げ、キリストだけを握りなさい。そこに永遠のいのちがあるのだよとおっしゃっているのに空回りするわけです。講壇からメッセージを語っていても「なるほど、そうですか。でも痛いのですよ。でも、うちの家内が、でも、うちの子どもが、でも、うちの会社は...」そこから逃げられないのです。奴隷なのです。なぜでしょうか。人が悪いからではなくて、本当のことを心から認めていないからです。そういう意味で、イエス様はそのような人々に向かって、このように招いていらっしゃいます。すべて、疲れて、重荷を負っている者は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

　前にもお話ししたと思いますが、ある牧師のおあかしを聞いて、なるほどとうなずきました。その人が未信者の頃、その人のお父さんは毎日お酒に酔いつぶれて、暴力をふるい、家の中の家具を壊したり投げたり、それが毎日続いていたようです。幼い頃の子どもの心はどのような傷を負うようになるでしょうか。人の性格によって変なところに行くのか我慢するのかいろいろありますが、たぶん、その子は性格的に良かったのか我慢のタイプだったようです。しかし、我慢するか爆発するか関係なく、問題は問題です。様々な問題の中で福音を聞くことになり、本当のことが分かってキリストを受け入れることになりました。その時、この人が気づくようになったそうです。今まではお父さんが加害者で、お母さんと私たちは被害者なのだと思っていました。それが傷なのです。でも、本当の問題が分かった時、お父さんも被害者なのだね、お父さんもかわいそうなのだねと気づきました。それが自由です。今まで分かっていた、そして、心のしこりとして残っていたいろいろなことが解けていくようになります。それはすべて嘘なのです。霊的な事実を隠して肉のことを取り上げ、人々を自分の手に捕えて操るための悪魔のしわざであり嘘なのです。今までの私の人生の中に、そして今現在も何かあるのでしょうか。本当の問題に素直に向き合わないといけません。そうすると文句もつぶやきも、これもあれもすべて下ろされて一つしか残りません。努力も、すべての荷も下ろしてキリストしか見えません。イエスはそのキリストです。だから、Onlyイエスになるしかありません。

　2021年がスタートしました。コロナのパンデミックの状況は今もずっと続きます。これからもっとひどい状態になるでしょう。緊急事態宣言の効果も2週間ぐらいで現れるみたいです。私たちは感染対策などをしっかりしないといけないと思いますが、そういうことに振り回されてはいけません。心はしっかりと保っていかないといけません。これから皆さんひとりひとりが静かな思いを保って、その状態を作って、神のことばと真剣にまじめに向き合うように覚悟を決めて取り組んでいただきたいと願います。それが2021年、具体的なミッションです。神のことばが空回りして、いつも空耳みたいな感じになります。皆さんの心から聖書と向き合い、本当の問題を真心から、中心から認めていないからです。何が言いたいのでしょうか。何がそんなにややこしいのでしょうか。何が疑問なのでしょうか。そういったすべてが消え去っていくようになるでしょう。神のことばと向き合って、何より本当の問題を聖書が教える通りに認めて、今まで引っかかっていたすべてを取り払って、全部、脱ぎ捨てて、そこから自由になりましょう。皆さんの今まで肉のつぶやき、誰かのせいにしていたこと、また疲れて重荷を負っているすべてのことは、実はキリストへと導かれるための神様の配慮だったのです。それ以外の説明は全部消すようにしましょう。そして、信者でありながらもいろいろありました。皆さんの頭の中をややこしくしていたもののすべては、皆さんがOnlyイエスの信者になるようにということで神様が導かれていたという説明以外は全部捨てるようにしないといけません。他のすべての説明を否定することを勇気と言います。それでOnlyイエスとなり、イエスだけが残って、そのイエスの中からすべてを新しく始めるようにすることが勝利の第一歩になります。

　2021年がスタートしました。ぜひ皆さん、このような実際的に神のことばと向き合うような祝福があることを祈りたいと思います。非常に大切な内容なので、いろいろなトラブルなどがありましたが、そういうトラブルはすべて忘れて、このみことばだけに向き合いましょう。そして、今年はできるだけメッセージカードも一つの文章に短くします。暗記してください。1週間ずっと繰り返して。いろいろな説明などはまたメッセージを繰り返して聞いてもらい、しかし、メッセージは短いメッセージカードにある文章で皆さんのものにしていただきたいと思います。神のことば、メッセージと真剣に素直に向き合う、そこにいやしがあり、サミットの祝福があることを信じて、また期待します。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。2021年がスタートしました。なによりOnlyイエスの契約をしっかり握って、それが刻印されることのためになにより自分の感情や知識をあとにして、神のことばと真剣に向き合うことによって、まず本当の問題が何かを認めるところから始め、キリスト・イエス一本に絞られる祝福を体験できるように聖霊様がひとりひとりを助けてください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。